

こころ (心)

2020(令和2)年10月15日発行

第 89 号

糸島市人権・同和教育推進協議会

波多江支部

糸島市立波多江コミュニティセンター

☎ 322-1614

〈活動スローガン〉 ～考えようお互いの気持ち、育てよう思いやりの心～

戦争を考える夏～

「雷山空襲」を知っていますか

毎年、夏は、**最大の人権侵害である「戦争」**について考える季節です。住民を巻き込んだ沖縄戦や広島や長崎の「原爆」を思い起こす方が多いでしょう。今回は、身近なところで起こった「空襲」を紹介します。

1945(昭和20)年6月19日、「福岡大空襲」がありました。死者行方不明者が1,000人を超える大きな被害でした。そのうちの一機が、**当時の雷山村を爆撃**したのです。雷山小学校の教師や児童を含む、**住民8人が犠牲になり、24戸の建物が失われました。**

今でも爆撃によって頭部がなくなった地蔵、焼け跡の残る建物や木が残され、戦争を考える活動に役立てられています。

我が国は、戦争で多くの人が犠牲になりましたが、同時に、他国へも苦しみを与えました。**戦争は人間性を奪ってしまうのです。戦争での被害と加害、その両方に思いを巡らし、改めて、命の大切さ、人権を守ることの重要性を実感していただければと思います。**



爆撃で頭部を失った地蔵

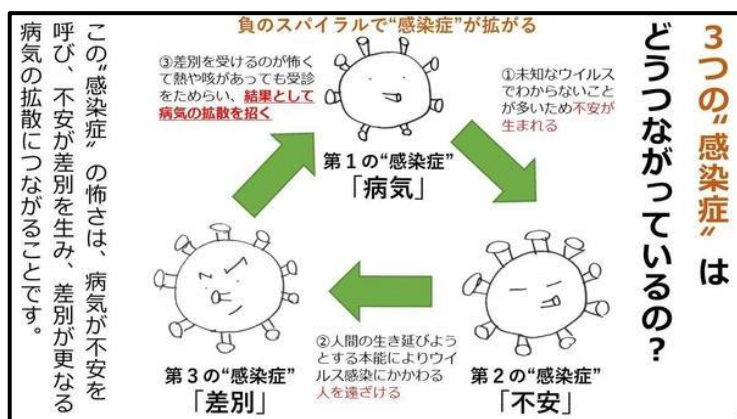
新型コロナウイルスの3つの顔

日本赤十字社が提唱している「新型コロナウイルスの3つの顔」を紹介します。

一つ目は病気の側面。感染すれば命をも奪い、世界中で猛威を振るっている現実に対し、**互いが感染拡大防止に努めるとともに、医療現場の最前線で活動している人たちへの敬意や感謝も忘れたくないものです。**

二つ目は不安の側面。「感染しないだろうか、させないだろうか…」、「家族は、友人は、同僚は…」、「いつになったら元どおりに…」など、つい考えてしまう。

「コロナうつ」という症状が報告されています。感染の心配をすることで気持ちが不安定になってしまうのです。この状態に打ち勝つためには、**気づく力(いつもの自分と違わないか、客観的に自分を見つめる)、聴く力(正しい情報を選別し、判断する)、支える力(必要なことを見極め、自分に自信を持つ)**をしっかりと自分のものにすることが大切です。



そして、三つ目は差別の側面。**感染することは悪ではありません。それを理由の不当な扱いは許されません。また、その周りの家族や医療関係者も社会で支えられるべきで、差別されるのはもってのほかです。**

今求められるのは、**一人一人が互いを尊重し、支えあってコロナ禍を乗り越えて行く、そんな人としてあるべき姿です。**

行政区研修会啓発ドラマ紹介

「サラマツト～あなたの言葉で～」

市同協波多江支部では、毎年、**人権に関する行政区ごとの研修会**を開催しています。

それは、啓発ビデオを観て、互いに意見を交わしあい、人権について考える内容です。

今年度の作品は、「サラマツト」。フィリピンの言葉（タガログ語）で、「ありがとう」です。

主人公・珠美は、新しく職場に来たフィリピン人のミランダに対し、様々な「違い」を「壁」だと捉え、面倒な存在だと感じてしまいます。

しかし、自分とは異なる文化や考え方を持つミランダとの対立や交流を通して、珠美は新たな視点に気づかれ、「違い」は様々な問題解決の糸口になることも学んでいきます。

珠美とミランダの姿を通して**外国人は「受け入れてあげる存在」でも「労働力」でもなく、助け合うことができる対等な仲間**であること。そして、**SNSを傷つけるための道具としてではなく、人の心と心をつないでいくために利用する様子**を描いています。

「違い」は壁ではなく、自分自身を成長させ、地域を豊かにする源です。**異なる文化の人たちを、共に未来をつくる新しい存在として尊重し、互いに高め合っていく**。そんな多文化共生社会の実現をめざす内容となっています。

今年は新型コロナウイルス感染予防のため、中止と

なった行政区もありますが、今後開催される行政区の研修会に積極的にご参加いただき、人権にかかわる行動について考える機会にしてほしいと思います。

推進員、思うこと…

板持行政区人権・同和教育推進員 小楠 徹

＝高齢者の人権を考える＝

9月21日は「敬老の日」でした。現在の私たちがあるのは、その礎を築いてくれた高齢者のおかげです。

波多江校区の人口が約12,000人、そのうち65歳以上の高齢者が約3,200人です。これは校区全体の約27%にあたります。また、75歳以上の後期高齢者は1,470人います。

高齢化とともに**高齢者の認知症が社会的な問題となっています**。日本は、令和6年には約700万人、実に高齢者の5人に1人が認知症になると推計されています。

高齢者や認知症の方を家族や地域でどのように支えていくのかがこれからの大きな課題でもあります。

波多江校区では、**多くの高齢の方が校区や地域のために貢献したり、趣味を通して元気に活動したり**しています。学校の道徳授業でも、高齢者への尊敬の念を深め、感謝の気持ちをもって接する心を育てています。

敬老の日を契機に、高齢者に対する感謝の念と、**高齢者の幸せと尊厳を守るという人権の視点から、私たちに何ができるかを考えたい**ものです。

今年度の校区文化祭は中止に

新型コロナウイルスの感染拡大を避けるため、11月に予定されていた波多江校区の文化祭は中止となりました。例年、**市同協波多江支部や人権擁護委員の活動の紹介、さらには、波多江小学校や前原東中学校で行なわれている人権に関する取り組みの展示**などを行なっていますが、残念ながら、今年は、皆さんに活動を報告する機会を一つ失ってしまいました。

